

市民活動・ボランティア

ニュース 2007年 4月号 平成19年3月25日発行 通巻100号

◆発行◆
514-0009
津市羽所町700番地
アスト津3階
みえ市民活動ボランティアセンター
Tel.059-222-5981
Fax.059-222-5971
E-mail seiknpo@pref.mie.jp
NPO室のホームページ
http://www1.mienpo.net/npot
三重県のホームページ
http://www.pref.mie.jp

市民活動・ボランティアニュースは
こちらにあります！

- 【地域の市民活動センター等】
- 津市●みえ市民活動ボランティアセンター／津市市民活動センター／分部分部食堂／津中央郵便局ボランティアコーナー／(有)デザインオフィス 萩野 ●桑名市●特定非営利活動法人みえきた市民活動センター
 - 四日市市●四日市市民活動センター／寺子屋プロジェクト ●亀山市●亀山市民協働センター
 - 鈴鹿市●市民ネットワークすずかのぶどう ●松阪市●三重中京大学／松阪市市民活動センター／松阪まちづくりセンター『まちの駅松阪「寸庵」』 ●伊勢市●特定非営利活動法人伊勢志摩NPOネットワークの会／伊勢市民活動センター
 - 鳥羽市●鳥羽NPOネットワークセンター ●名張市●名張市立図書館／名張青年会議所／皇学館大学名張キャンパス／名張市総合福祉センター／エコリソート赤目の森／名張市市民活動センター／くらしの情報センター同夢 ●伊賀市●ウィリアム・テルズ アップル まちづくりセンター／伊賀市中央公民館／伊賀市立図書館／上野青年会議所／伊賀市市民活動支援センター
 - 明和町●明和町市民活動サポートセンター ●南伊勢町●南伊勢町民文化会館
- 【地域の社会福祉協議会】県内の市町村社会福祉協議会
- 【金融機関・企業等】百五銀行各店／三重銀行各店／東海労働金庫各店／第三銀行各店／メディカル光各調剤薬局
- 【行政機関等】三重県庁県民ホール／三重県地域機関(各県民センター)(桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、松阪、南勢志摩、伊賀、紀北、紀南)／三重県栄町庁舎(情報公開窓口)／三重県総合医療センター／三重県立一志病院／三重県立志摩病院／三重県立こころの医療センター／斎宮歴史博物館／三重県立博物館／三重県立図書館／三重県生涯学習センター／三重県男女共同参画センター『フレンドみえ』／三重県人権センター／三重県身体障害者総合福祉センター／三重県環境学習情報センター／各市町役場



第100号を記念して 三重県生活部NPO室長 若林千枝子

多くの犠牲者を生んだその一方で、日本人の「ひとを思いやる心と行動力」、そして「ボランティア意識の高さ」を見つけた平成7年の阪神淡路大震災、これが契機となって特定非営利活動促進法が制定され、ボランティア・市民活動団体に法人格取得の道が開かれました。市民活動ボランティアニュースは、この法律の施行日である平成10年12月1日に誕生しました。それはまたアスト津3Fに設置された、みえ市民活動ボランティアセンターの前身である「三重県市民活動センター(現栄町庁舎)」のオープンの日でもありました。以来8年4ヶ月、毎月1万部の発行を続け、今回で第100号を迎えました。その間に全国のNPO法人数は3万を超え、三重県にもすでに420を超えるNPO法人が設立されました。

アスト津3Fに移転した平成13年4月1日からは、(社福)三重県社会福祉協議会の三重県ボランティアセンターも同居して、名実ともにみえ市民活動ボランティアセンターとなりました。活動の種類、分野、法人格の有無を問わず、社会的な課題を解決しようとの志をもった人達(ボランティア)一人ひとりが集まって組織したNPOに対して、ボランティア・市民活動の場や交流の機会の提供、様々な情報の受発信など、支援機能を充実させてきました。

一方、各地域に設立された市民活動支援センターやNPO支援組織の活躍にも目を見張るものがあります。市町の社会福祉協議会ボランティアセンターとも連携して、地域や分野を超えた市民活動やボランティアなどの非営利で公益的な活動をしている人たち、これから活動しようと考えている人たちのためのキーステーションとなって、市民活動がもっと活発になるように支援するとともに、地域の団体や市民団体、企業、行政といった主体間の協働による、住み良い地域づくりをすすめています。

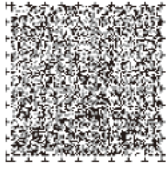
市民活動ボランティアニュースの使命は、こういった県内各地域のさまざまな活動や、身近な市民活動への県民のみなさんの理解を深め、多くの人が活動に関わるきっかけを提供することに尽きると思います。

このニュースがより多くのみなさんにご覧いただけるように、これまでさまざまな工夫をしてきました。例えば原稿締め切りから発行までの期限をわずか2週間としたこと、目の不自由な方への朗読テープやSPコード対応、インターネット版の作成等です。

また配置場所として各地の公設・民設の市民活動センターを始めとして、銀行・薬局など企業の各店舗や、団体、市町など行政機関等のご協力をいただき、県内約450カ所で入手していただくことができるようになりました。その上、今回を第100号記念として発行するにあたり、県内外の多くの方から励ましのメッセージをいただきました。身の引き締まる思いです。今後ともスタッフ一同、県民のみなさんとともにボランティア・市民活動のさらなる発展をめざしたいとの思いを新たにしています。

SPコード

右にある図形は「SPコード」と呼ばれる二次元コードです。視覚に障害を持つ方が「スピーチオ」と呼ばれる専用の読取機を使用することで、ここに記録されている情報を音声で聞くことができます。



情報をお寄せください。市民がつくる市民活動の情報です。
ホームページ版、朗読テープ版もあります。お気軽にお問い合わせください。



先日、ある会議で、なんとなく思い込んでしまっている「枠」の話がありました。例えば、小学生を対象にしてイベントをしましょうとなった時、まず浮かぶのは「じゃあ、〇〇小学校で」というのが多くの場合ではないでしょうか。こうした時に、ひとつの学校を対象と決めてしまうのではなく、「〇〇市や〇〇町(時には市町も越えて)に住んでいる小学△年生」を対象とする発想も必要になってくるのではないかと、といったことです。

手順の容易さなどから、既存の枠に留まってしまいがちになることは、「ボランティア活動」や「市民活動」のなかでも繰り返し課題となっていることです。その中で、この「市民活動・ボランティアニュース」は、この課題を少しずつクリアしていったのではないのでしょうか。この100号記念を読んでみますと、本当にいろいろな人々がこのニュースを支えているのだと分かります。しかし、まだまだ余地はあります。200号記念は今回の倍以上のページ数にせざるをえなくなっているかもしれません。

より多くの人々に支えられ、そしてより多くの人々を支えるニュースとなりますように!

みなさんへのお知らせ

特定非営利活動法人認証申請団体と成立団体のお知らせ
特定非営利活動法人(NPO法人)申請は6団体ありました。引き続き、認証申請を受け付けています。

申請のあった団体と成立した法人を紹介します。なお、関係書類は三重県生活部NPO室及び各県民センターに備え置いてあります。


●認証申請団体

- (1)名称(2)代表者氏名(3)法人事務所の所在地
- 【1】(1)魅力発見木曾三川(2)伊藤直之(3)桑名市長島町大倉1番地126
【2】(1)リープザベスト(2)橋本良平(3)四日市市日永東三丁目6番5号
【3】(1)ワールドライン(2)松岡邦一(3)四日市市日永西四丁目2番18号
【4】(1)日本代替・統合医療研究所(2)橋爪 勝(3)桑名市大字桑部589番地1
【5】(1)NPO法人しあわせ広場(2)岡村久子(3)津市雲出本郷町1461番地85号
【6】(1)みらい(2)満園恵美(3)桑名市大字額田455番地3
(平成19年2月10日~平成19年3月9日申請分)

●成立した特定非営利活動法人(登記年月日)


- 夢街道おお(平成18年10月10日)
知的障害者関連施設支援連絡会 みちおしえの会(平成19年1月12日)
自然学校みえ(平成19年2月19日)/鈴桜会(平成19年2月20日)
いちりんの会(平成19年2月21日)/木曾川文化研究会(平成19年2月21日)
(平成19年2月10日~平成19年3月9日届出分)

イベントスケジュール

 **チャイルドライン24ボランティア**
チャイルドライン24(子どもの心を受け止める子ども専用電話)を子どもたちに知らせるためのカードを仕分けするボランティアを募集します。カードは三重県内全ての高等学校、中学校、小学校に配布されます。このほか、カードを置いてくださる所、お世話していただける方も募集もしています。

- とき/4月2日(月)・4月5日(木)・4月6日(金)
10:00~16:30 ●持ち物/昼食
●ところ/MIEチャイルドラインセンター事務所 会議室
●問い合わせ先/514-0125 津市大里窪田町2709-1(特)
MIEチャイルドラインセンター内「チャイルドライン24」実施組織サポート 子どもの心を受け止めるネットワークみえ
Tel&Fax.059-211-0024
E-mail jisshi@childline24.net

●劇団はぐるま座公演・詩人 磯永秀雄の世界

-  **童話劇「天狗の火あぶり」三重県公演**
●とき・ところ/4月3日(火)19:00 伊勢市いせトピア
4月4日(水)18:45 志摩市阿児アリーナ
4月5日(木)14:00・19:00(2回公演)伊賀市青山ホール
4月6日(金)18:30 四日市文化会館第二ホール
4月7日(土)18:45 鈴鹿市文化会館げやきホール
4月8日(日)14:00 菰野町町民センター
4月13日(金)18:30 川越町あいあいホール

4月14日(土)18:45 亀山市文化会館

●参加費/前売 一般3000円、小中高生1000円、親子割引(一般一人と小中高いづれか一人)3500円


※前売券は全会場共通券です。どの会場でも観劇できます。

●内容/あの戦争の体験から現代に語りかける!東京大学在学中に学徒兵としてニューギニアに送られた「磯永秀雄」は想像を絶する戦いの中、ほとんどの戦友を失いながら奇跡的に生還する。その体験から生まれた多くの詩の朗読と、強く優しい日本人の心を描いた童話劇、三編で構成した舞台です。

●問い合わせ先/劇団はぐるま座三重事務所

Tel.090-8605-3914(担当:細川)

●三重日独協会主催ドイツ語教室 四日市ドイツ語会話教室

-  ●とき/4月13日(金)~6月22日(金)毎週金曜日(5月4日は除く)19:00~20:45
●ところ/じばさん三重5階(四日市市安島1-3-18 Tel.059-353-8100、四日市市立博物館となり、近鉄四日市駅から徒歩5分・駐車場有)
●参加費/10,000円(三重日独協会会員)、12,000円(非会員)
●内容/講師は三重大学ドイツ人留学生のアンニャ・ロムケさん。前半は、NHKテレビ講座のテキストにそった入門編、後半は、会話の練習(フリートーキング)を主とします。
●問い合わせ先/池田直子 Tel.059-351-4843

津ドイツ語会話教室

- とき/4月13日(金)~6月22日(金)毎週金曜日(5月4日は除く)全10回コース 18:30~20:30
●ところ/橋北公民館研修室(津市羽所町700番地 アスト津5階 Tel.059-222-2525、津駅から徒歩1分・駐車場有)
●内容/三重大学ドイツ人留学生のミハエル・ネッシュさんを講師に迎え、ドイツ語会話を学びます。内容は四日市教室と同じです。
●問い合わせ先/向井明子 Tel.059-232-0594
E-mail mukai@zvtv.ne.jp

●五十鈴塾の催し

バスで行く特別企画講座 【桜の旅と薬草料理】

- とき/4月13日(金)~14日(土)
●ところ/浦田駐車場8:00集合 宿泊・宝の家(1泊2食)
●参加費/会員40000円、ビジター41000円(バス代、交通費、宿泊費、昼食、入場料、ガイド料、保険料ほか含む)
●内容/享年年間に開かれた「小石川植物園」と並ぶ日本最古の薬草園、史跡森野旧薬園を見て、聖徳太子ゆかりの大願寺の有名な薬草料理も味わおうという贅沢企画です。大宇陀の又兵衛桜はもちろん、宿も中千本のド真ん中にある「宝の家」です。
●募集人数/25人限定(定員になり次第締切)
【赤目四十八滝と花巡り】

- とき/5月23日(水)7:00~19:00(小雨決行)
- ところ/浦田駐車場7:00集合
- 参加費/会員7500円、ビジター8000円(講師料、バス代、交通費、入場料、保険料ほか含む)
- 内容/不動滝に布曳滝、写真でよくみる荷担滝、滝壺の深い青が神秘的な琵琶滝、五月の赤目は翡翠色の楓が滝に映えて、それはそれは美しいのです。講師の松田輝雄先生(元NHKエグゼクティブアナウンサー・樹木医)と一緒に初夏の緑と水を堪能しましょう。欲張りなようですが、近くにある花の郷滝谷にも寄って盛りの鉄線と咲き始めの花菖蒲も見ます。
- 持ち物/歩きやすい格好、弁当、飲み物。あれば図鑑、双眼鏡)
- 募集人数/25人限定(定員になり次第締切)

年中行事と食 一句を食す一

- とき/5月3日(木)11:30~13:00 ●ところ/五十鈴塾
- 参加費/会員1000円、ビジター1500円(食材費含む)
- 内容/五節句の一つ、端午の節句は菖蒲や蓬をつんで屋根や門に飾り、邪気を払う行事でした。菖蒲が勝負につながるころから次第に男子の節句になってゆきました。食を味わうことで日本の暮らしを感じていただきたいと思います。
- 募集人数/30人(定員になり次第締切)

矢野塾長と行く「125社巡り」

- とき/5月9日(水)9:00~16:00(雨天中止)
 - ところ/表見張所(外宮衛士詰所前)9:00集合
 - 参加費/会員1000円、ビジター1500円
 - 内容/伊勢神宮は125社もの神社の総称です。それぞれのお宮は創建も由緒も違います。「えっ、ここもそうだったの?」「へえ、そういうお宮だったんだ」と知って得(?)する講座です。
 - 持ち物/ハイキングのできる格好、飲み物、弁当、おやつ
 - 募集人数/30人(定員になり次第締切)
- 問い合わせ先(上記全て)/伊勢市宇治浦田1丁目5番3号
NPO法人五十鈴塾事務局 Tel.0596-20-8251
Fax.0596-20-8253 E-mail info@isuzujuku.org
ホームページ <http://www.isuzujuku.org>

ネットワークのよびかけ



亀山市民協働センター誕生!

- 市民活動の支援と協働を推進する拠点として、亀山市民協働センターが4月1日にオープン。市民活動団体の定例会、活動や展示、市民活動情報の提供や各種講座を開催。センターは市役所にも近い旧東海道筋にあり、駐車場(40台)もあります。会議室は6ヶ月前から予約可、使用料は無料です。
- 開館時間/9:00~22:00
 - 休館日/年末年始(12月29日~1月3日)
 - 【オープニングセレモニー】
 - とき/4月1日(日)10:00~
 - 10:00~ 記念講演「協働が生み出す新たな可能性」

- 早瀬昇氏(社会福祉法人 大阪ボランティア協会事務局長)
11:00~ パネルディスカッション(早瀬氏、市民団体代表)
- 12:30~14:30 市民交流会
- 問い合わせ先/519-0125 亀山市東町1-8-7 亀山市民協働センター Tel.0595-84-5800
E-mail collabo_kame@sakura.ne.jp

コミュニティ・ユース・バンク momo 第1回 融資申し込みの受付開始のお知らせ

- ~「お金の地産地消」の実現を目指して~
コミュニティ・ユース・バンク momoは2005年に設立された市民による市民のための金融システム(NPOバンク)です。豊かな未来を実感できる持続可能な地域社会を目指して、2007年3月1日より第1回融資申込の受付を開始いたしました。従来の貸す側、借りる側といった枠を超えて、「ともに地域で暮らす仲間として一緒に創っていく!」。そんな事業を募集いたします。
- 受付締切/4月30日(月・祝)必着
 - 助成の対象となる団体/法人の形態は問わないが、momoの正会員であることが必要。(融資決定後に登録も可能)
 - 助成の対象となる活動/豊かな未来を実感できる地域社会をつくる事業。
 - 連帯保証/融資対象は法人であっても、個人の連帯保証が2名以上必要。うち1名は代表者。
 - 対象地域/原則、愛知・岐阜・三重の東海3県。
 - 資金用途/起業資金、設備資金、運転資金などを想定。
 - 返済期間/第1回融資では最長でも3年、返済周期は毎月~半年を想定。
 - 融資金額/第1回融資の上限は最大で300万円を想定。ただし、融資金額は原則、出資金額の10倍までとし、つなぎ融資(補助金などが交付されるまでをつなぎ融資)の場合、出資金額の40倍まで。
 - 貸出金利/年2.5%(つなぎ融資の場合は2.0%)の固定。
 - 応募方法/資金借入申込書はホームページ(<http://momobank.net/howtoyushi.html>)からダウンロード。申請は郵送、FAX、E-mailにて下記まで。
 - 問い合わせ先/460-0014 愛知県名古屋市中区富士見町9-16 有信ビル2階 コミュニティ・ユース・バンクmomo運営事務局(担当:木村、西井) Tel.052-331-5695
Fax.052-339-5651 E-mail info@momobank.net
ホームページ <http://momobank.net/>
※電話は留守番電話での対応となりますので、ご連絡は原則FaxかE-mailをお願いします。

第三銀行NPO法人専用ローン

- 地域社会で活躍するNPOの活動を支援することを目的として、三重県から認証を受けているNPO法人を対象に、運転資金ニーズや、つなぎ資金ニーズに最大1000万円まで原則無担保で対応するものです。当行は、今後も地域金融機関としてCSRへの取組を推進してまいります。
- 利用できる方/次の条件をすべて満たすNPO法人



これから市民活動・ボランティア活動を始めたという方、始めたばかりという方の疑問などにお答えします。

意外に集まらない?シニア向け講座のはなし

「シニア向けの講座を企画したが、意外に集まりが悪い。」市民活動(支援)センターの情報交換会で中間支援組織のスタッフの皆さんからこんな声がありました。各地で開催されたさまざまなシニア向けの講座の参加者がふるわず、のきなみひとけたったそうです。

原因についてもいろいろ意見が出ました。「まだまだ仕事したいのではないか」「シニアと呼ばれることにも抵抗があるのでは」「何かやろうとする人はもうすでにやっているのでは」

団塊の世代にとっても若い世代にとっても、NPOやボランティアがもっと身近で、誰もが関心を持って参加するきっかけとなる情報を満載した「市民活動・ボランティアニュース」をお届けできればと思います。

三重県生活部NPO室 堀木俊哉

(1)原則として、設立後2年以上で、2年以上の活動実績があり、2年分の事業報告書を提出できること。

(2)三重県による認証を受けていること。

(3)情報公開の義務を果たしていること。(NPO法第29条に定める書類を所轄庁に提出していること)

(4)本商品の対象資金用途にかかる事業を行っていること。

●資金使途／【運転資金】自治体等からの委託事業や介護保険の対象となる介護事業にかかる運転資金。

【つなぎ資金】自治体等からの委託事業にかかる委託金や自治体等からの補助金等が交付されるまでのつなぎ資金。

●融資金額／【運転資金】50万円以上1000万円以内(10万円単位)ただし、委託事業または介護保険の対象となる事業にかかる収入の1ヶ月分以内とします。なお、当行の口座を振込指定口座で指定いただけるものに限ります。

【つなぎ資金】100万円以上、1000万円以内(10万円単位)ただし、委託金または補助金等の受領予定額の90%以内とします。なお、交付元によって他金融機関の口座が指定されている場合を除き、当行の口座を振込指定口座にご指定いただけるものに限ります。

●融資期間／【運転資金】1年以内(ただし、委託事業で1年以内に契約期限が到来する場合は委託金の受領予定時期まで)

【つなぎ資金】1年以内で、補助金または委託金等の受領予定時期まで。

●融資利率／当行短期プライムレート+0.375%

●返済方法／期日一括返済

●担保／原則不要

●連帯保証人／【運転資金】法人代表者を含む2名以上

【つなぎ資金】法人代表者1名以上

両資金とも複数代表の場合は全員。

●取扱手数料／無料

●問い合わせ先／第三銀行 総合企画部広報課(担当:尾崎)

Tel.0598-25-0363

営業統括部営業企画グループ(担当:吉田・伊藤)

Tel.0598-25-0321

.....



パンの缶詰販売のご案内

日本財団の助成を受け、視覚障害者支援団体、社会福祉法人名古屋ライハウスが製造しているパンの缶詰(定価330円)です。いつでも焼きたてのようにふっくらやわらかなまま、パンの保存が3年間



も可能。防腐剤などは一切使用していません。大変高カロリーなので、災害時の非常食用に最適なのはモチロン、グルメなアナタの常備食やアウトドアにも!ライフスタイルに合わせてご自由にお楽しみください。缶切りがいらず、誰でも簡単に開けられるイージーオープン缶です。パンの缶に表示する点字シールも承ります。

●申込・問い合わせ先／514-0304 津市雲出本郷町1537-30 視覚障害者こもれび音楽センター(担当:多賀輝宏)
Tel.059-234-8554

.....

ドイツ人学生のホストファミリー募集

三重大大学のサマースクールに参加するために、ドイツ各地の大学から学生15名が来日します。学生たちは大学で2年間日本語を学んでいるので、日本語での日常会話に支障ありません。滞在中、月曜から金曜の午前中は三重大で授業を受け、午後からは週に数回程度見学旅行などを行います。土曜日は日帰り遠足の日で、日曜日はファミリー・デーです。ホームステイの受入条件は、朝食と夕食を提供していただくこと、一部屋個室を貸していただくことです。

●とき／8月18日(土)～9月14日(金) ●謝礼／5万円

●申込・問い合わせ先／大河内朋子 Tel.059-227-0687

E-mail okochi_tomoko@mac.com

●主催／三重大国際交流センター

.....

森林施業NPO法人森林の風

「豊かな森林を未来にのこそう」をキャッチコピーに2005年9月に法人の認証を受け、活動開始した「森林施業NPO法人森林の風」です。安全作業を優先し、マナーとルールを守り、森林所有者や地元森林組合と協調した活動を進めています。全ての森林に所有者が存在します。安全作業とマナー・ルールは活動の基本姿勢です。森林の知識と技術を合わせて学ぶ「まちの木こり人育成講座」企画も2年目に入ります。健全な森林再生を共に進めましょう。07年度は、4月21日の三重大演習林見学から始まります。協賛企業及び活動体験など、お問い合わせください。

●主な活動内容／まちの木こり人育成講座(年10回開催)・臨時講座(年3回)、始めの一步講習会(年3回)、森林施業請負(間伐・植樹・地替えなど)

●問い合わせ先／森林の風事務局(担当:瀧口)

Tel.059-321-7719、090-9663-4088

ホームページ <http://morinokaze.info/>

.....

平成19年度 通訳・翻訳ボランティア大募集!!

外国からの訪問者のアテンドやレセプションでの通訳、案内文書やパンフレットの翻訳などの活動をしていただける方を「通訳・翻訳ボランティア」として登録し、地方公共団体や教育機関、国際交流団体などからの依頼に基づき、活動していただく制度です。

●応募締切／5月7日(月)

●募集人数／英語30人、中国語30人、ポルトガル語20人、スペイン語20人、韓国・朝鮮語10人、タガログ語10人、タイ語10人、その他の言語各10人 程度

語学資格／英語での登録を希望される方(母語が英語以外の方)の参考基準は「実用技能英語検定:準1級以上、TOEIC:700点以上、通訳技能検定:2級以上」です。その他の言語については、特に定めていません。日常会話ができる日本語能力が必要です。

●費用等／活動にかかる交通費等は、実費が支給されます。

通訳:3時間以内1000円 3時間以上2000円を支給。

翻訳:A4用紙1枚あたり1,000円を支給。

●スケジュール／【面談】5月14日(月)～18日(金)

※平成19年度に初めてご登録を希望される方が対象です。平成18年度から継続してご登録いただく場合は、面談はありません。

【オリエンテーション(事前説明会)&交流会】5月26日(土)予定。

●申込方法／「通訳・翻訳ボランティア登録申込書」に記入の上、下記まで。面談日は財団から連絡があります。

●問い合わせ先／514-0009 津市羽所町アスト津3階

財団法人 三重県国際交流財団(担当:平野)

Tel.059-223-5006 Fax.059-223-5007

E-mail mief@mief.or.jp ホームページ <http://www.mief.or.jp>

助成金 ニュース

全労済地域貢献助成事業

●受付締切／4月10日(火)消印有効

●助成の対象となる団体／公益を目的とし、日本国内を主たる活動の場とするNPO法人、任意団体等(NGO、ボランティア団体等)

●助成の対象となる活動／【1】環境分野

(1)地域の自然環境を守る活動...継続的に取り組む森作り、里山や竹林の整備・保全の活動など。

(2)循環型地域社会を作るための活動...ゴミの軽減やリサイクル、省エネルギー、水質浄化活動など。

(3)地域の自然や環境の大切さを学ぶための活動...地域の子どもや住民を対象とした自然観察会など。

【2】子ども分野

(1)子育てを支援する場の活動...親子の居場所づくり(親子のひろば、サロ

ン活動など) 学習会活動、子育て相談活動など。
(2) 子どもの健やかな育ちを支える場の活動...子どもの居場所づくり(プレーパーク、フリースペース、フリースクールなど) 子どもの悩み相談活動など。
対象事業の期間 / 平成19年8月1日 ~ 平成20年7月31日
助成の額 / 助成総額は環境分野3,000万円、子ども分野2,000万円の総額5,000万円(上限)を予定。それぞれの分野に一般助成と特別助成があり、いずれかに応募いただけます。詳細については応募要項を参照。
一般助成...上限30万円、特別助成...上限100万円
応募方法 / 応募要項などは全労済のホームページ(<http://www.zenrosai.or.jp/eco>)よりダウンロードするか、以下の協働事務局まで請求。
問い合わせ先 / 環境分野と子ども分野で問合せ先が異なります。ご注意ください。
【1 環境分野】特定非営利活動法人地球と未来の環境基金(EFF) 全労済地域貢献助成事業事務局 <環境分野>(担当:佐々木・古瀬) Tel.03-5298-6644 Fax.03-5298-6635(平日10:00 ~ 17:00 土日祝除く) E-mail grant@eco-future.net
【2 子ども分野】社団法人日本フィランソロピー協会 全労済地域貢献助成事業事務局 <子ども分野>(担当:服部・宮本) Tel.03-5205-7580 Fax.03-5205-7585(平日10:00 ~ 17:00 土日祝除く) E-mail grant@philanthropy.or.jp
応募先 / 全労済 経営企画部内 地域貢献助成事務局宛
151-8571 東京都渋谷区代々木2-12-10

「川に学ぶ」活動助成

受付締切 / 4月20日(金) 必着
助成の対象となる団体 / 市民団体、学校等の非営利団体。
助成の対象となる活動 / 昨年度から、従来の環境教育、自然体験等の活動の助成に加えて、行政とともに川づくりのパートナーとして連携する「河川を活かしたまちづくり」に関する活動も応援していますので積極的に応募ください。
(1) 河川・海岸等の水辺や、水辺に関わる地域をフィールドとして行う自然体験や環境教育等の活動。
(2) 河川・海岸等でのセミナーやスクール、情報提供、河川を活かしたまちづくりに資する検討・啓発等の諸活動。
助成の額 / 1活動あたり上限10万円。助成件数は40件程度。
応募方法 / 応募様式はホームページからダウンロード。エクセルの応募様式使用の場合のみ、E-mailにて申請可能。その他の場合は郵送。
問い合わせ先 / 財団法人リバーフロント整備センター(担当:研究第一部)
102-0082 東京都千代田区一番町8番地 一番町FSビル3階
Tel.03-3265-7121 Fax.03-3265-7456 E-mail(申請用)
h19manabu@rfc.or.jp ホームページ <http://www.rfc.or.jp/>

(財) 損保ジャパン 社会福祉(NPO法人設立資金)助成

受付期間 / 4月1日(日) ~ 30日(月) 消印有効
助成の対象となる団体 / 障害者・高齢者を対象とした、主として在宅福祉活動を行う団体で、平成19年度中(平成19年4月1日 ~ 平成20年3月31日)にNPO法人の設立認証申請を行う予定のもの。
助成の額 / 1件30万円
応募方法 / 応募要項・申込書は、請求者の郵便番号・住所・団体名・担当者名・電話番号・Fax番号を明記し、下記までFaxまたはハガキで請求するか、ホームページからダウンロード。申請は郵送にて。
問い合わせ先 / 損保ジャパン記念財団社会福祉助成係
160-8338 東京都新宿区西新宿1-2-6-1 損保ジャパン本社ビル37階 Tel.03-3349-9570 Fax.03-5322-5257
ホームページ <http://www.sompo-japan.co.jp/foundation/>

(財) 庭野平和財団 活動助成(前期分)

受付締切 / 4月30日(月) 振 必着
助成の対象となる団体・個人 / 個人・団体のいずれでも申請できます。(一個人、一団体に付き一件の申請に限ります) 申請者の国籍、団体の場合の法人格の有無は問いませんが、持続性のあることを原則とします。
助成の対象となる活動 / 【1、宗教的精神に基づく社会・平和活動】
神仏への畏敬の念から発して、広く社会及び個人の生活における物心両面の福祉に寄与することを志向する活動を意味します。具体的には、特定の宗教の枠を越えて展開されている平和のための教育・開発協力・環境保護・人権擁護・高齢化問題への対策等の活動を指します。
【2、地域のエンパワメントを創生する活動】
地域のエンパワメントを創生するために、様々な団体・個人が共に深い精神性・祈りをもって開かれる、集いやワークショップに助成を行います。理論と活

動の相乗効果による新しい価値観の創造を期待します。
助成の額 / 助成総額1000万円程度。1件あたり上限100万円。
対象事業の期間 / 前期は平成19年8月1日から1年間。
後期は平成19年11月1日から1年間の間に行われる活動とし、受付締切は8月13日(日)です。
応募方法 / 申請書類は下記のホームページからダウンロード。なんらかの事情で、ダウンロードできない場合は、財団へ電話、Faxまたは、E-mailにて連絡。申請は郵送にて。
問い合わせ先 / (財) 庭野平和財団助成係 166-0022 東京都新宿区新宿1-16-9 シャンヴィラ・カテリーナ5階 Tel.03-3226-4371 Fax.03-3226-1835 E-mail grant@npf.or.jp
ホームページ <http://www.npf.or.jp/>

富士フィルム・グリーンファンド助成金

受付締切 / 5月21日(月) 消印有効
助成の対象となる活動 / 【活動助成】自然環境保全もしくは自然とのふれあい活動
【研究助成】身近な自然環境保全のための調査研究もしくは自然とのふれあいを促進するための調査研究。
対象事業の期間 / 贈呈日より1年。内容によって2年利用することも可能。
助成の額 / 両助成合わせて助成総額は650万円、助成件数は3件程度。
応募方法 / 応募要項はハガキまたはFaxにて下記まで請求するか、下記のホームページからダウンロード。申請書類は簡易書留等で送付のこと。
問い合わせ先 / 公益信託富士フィルム・グリーンファンド事務局
110-8676 東京都台東区下谷3-10-10 (財) 自然環境研究センター内 Tel.03-5824-0960 Fax.03-5824-0961
ホームページ <http://www.jwrc.or.jp/>

平成19年度ニッセイ財団 高齢社会助成 高齢社会に関する先駆的事業助成・実践的研究助成 ～ 共に生きる地域コミュニティづくり～

【I. 実践的研究助成】
受付締切 / 6月14日(木)
助成の対象となる研究 / 1. 認知症高齢者に関する予防からケアまでを探索する実践的研究。
2. 高齢社会における地域福祉、まちづくりを探索する実践的研究。
3. 高齢者の自立・ケア・自己実現・社会参加を探索する実践的研究。
助成の額 / 1件当たり200 ~ 250万円程度、新規助成5 ~ 8件程度。
対象事業の期間 / 平成19年10月から最長2年
【II. 先駆的事業助成】
受付締切 / 5月31日(木)
助成の対象となる事業 / 1. 認知症高齢者に関する予防からケアまでの総合的な先駆的事業。
2. 高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す地域を基盤とした先駆的事業。
3. 高齢者の自立・ケア・自己実現・社会参加を推進する地域社会システムづくりの先駆的事業。
助成の額 / 11団体当たり700万円以内、新規助成2 ~ 3団体程度。
対象事業の期間 / 平成19年10月から最長2年半
... .. (以下、両助成共通)
助成の対象となる団体 / 既に優れた活動実績をもつ、社会福祉法人、財団法人、社団法人、NPO法人を原則とし、その代表者および事業責任者が信頼するに足るものであること。助成を受ける団体・法人のみが、その事業を展開するのではなく、住民や行政、施設、社会福祉協議会、学識経験者等がチームをつくり、広く地域住民を対象とした活動を展開してもらいます。
応募方法 / 所属機関の名称・役職・氏名・郵便番号・住所を記入し、送料140円切手を同封して請求。(急ぎの場合は追加して速達料270円切手も同封) またはホームページよりダウンロード。
問い合わせ先 / ニッセイ財団高齢社会助成事務局
541-0042 大阪府中央区今橋3丁目1番7号 日生今橋ビル4階
Tel.06-6204-4013 Fax.06-6204-0120
ホームページ <http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/>

助成財団センターは、助成、表彰、奨学などを行う財団法人・その他の法人などの情報を収集し、活動内容を広く社会に発信していくことを主な目的としています。その情報は冊子で刊行されているほか、ホームページやファクシミリサービスでも閲覧できます。(財) 助成財団センター Tel.03-3350-1857 Fax.03-3350-1858
ホームページ <http://www.jfc.or.jp/>

100号記念 メッセージ

様々な場所、立場から「市民活動・ボランティアニュース」をご支援いただいている方々から、100号を迎えたニュースにメッセージを寄せていただきました。皆様のご期待にお応えできるよう、これからも役立つ情報発信を心がけていきます。101号からの「市民活動・ボランティアニュース」も、どうぞよろしくお祈りします！



市民の想いを込めた市民活動を地域の原動力に！

日本NPOセンター事務局長 田尻佳史

NPO法の施行と同時に発刊された本誌は、文字通りNPOと共に歩まれてきた歴史。改めまして発行100号、おめでとうございます。創刊から8年余りの間、市民の想いが込められた活動を広く社会に伝え、賛同者を開拓し続けてこられた本誌は、地域において大きな財産を産み、育てて来られたと思います。

地方分権が進む中で、「地域を大切に思う心」と「想いをカタチにする行動力」が強く求められる時代へと変化しつつあるものの、その認識の広がりはまだ充分であるとはいえません。そんな今だからこそ、地域に呼びかけ、地域の共感を誘い、地域の参画を得るために、市民の活動を広げることが重要だと思います。市民の力＝地域の原動力となり、三重県がより活発な地域となること、そして本誌がこれからもNPOと共に歴史を刻みつつけることを願っています。

NPOをめぐる神話の打破を

名古屋大学教授／市民フォーラム21・NPOセンター代表理事 後 房雄

『ニュース』創刊の98年から8年を経て、かなりの成長を遂げた日本のNPOセクターですが、現在のステージへと飛躍すべき岐路に直面しています。「中央から地方へ」、「官から民へ」という流れの中で、NPOへの期待ばかりが膨らむのに、それに応えられるだけの力をNPOセクターが持ちえていないからです。NPOセクターは多様かつ重層的であるべきですが、その核となるべき事業型NPOの層が決定的に薄いのが日本のNPOセクターの最大の問題点です。それを解決するためにも、「NPOは寄付とボランティアで成り立つのが正しい」とか「公的資金に頼らないのが正しい」とかいう「神話」(レスター・サラモン)の克服が急務です。市民フォーラムとしても、神話を打ち破っていく人たちを支援していきます。



全国のリード役として、さらに一步！

社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事 事務局長 早瀬 昇

通算100号、おめでとうございます。本誌は市民活動団体に法人格取得の道を開いたNPO法施行の月に創刊。以後、毎月発行されていますから、ついにNPO法施行から100ヶ月となったわけです。

この法律を活用して三重県の市民はNPOの組織化や環境整備を進められました。三重県は人口当たりのNPO法人認証数が東海地区でダントツの1位。全国でも11位です。協働推進の仕組み作りや評価システムなど、皆さんの取り組みが全国をリードしたのも少なくありません。

今後も開拓的取り組みを期待していますが、特に冷戦後のグローバル化の進展に端を発するワーキングプアの増加やCSR(企業or法人の社会的責任)への対応は、大きな焦点となるでしょう。事業の維持・推進とともに人権擁護の核として、市民の実践が問われています。共に頑張らしましょう。



「新しい社会づくりを目指して」

百五銀行 企画グループ広報チーム 田中 忍

NPOや市民活動という言葉は、「市民活動・ボランティアニュース」が発行された1998年には耳慣れず、どのような意味を持つのだろうと迷っていたことを思い出します。また当時、NPOや市民活動は、行政の力が及ばない市民の多様なニーズに応える「すきま産業」とも言われました。

しかし最近では、NPOや市民活動の活躍を伝えるニュースが増え、NPOや市民活動がリードする新しい社会づくりが始まっていると実感しています。

当行でも、県内のNPOや市民活動の方との関わりはありますが、他企業の協働事例と比べると「まだまだ」と言えます。引き続き、NPOや市民活動の活躍やニーズに耳を傾け、企業市民の一員として積極的に社会づくりに参加していきたいと考えています。

「自分たちの活動への思い」—三重のNPO活動の昨日・今日・明日—

特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会 理事長 伊井野 雄二



「市民活動・ボランティアニュース」通算100号発行 おめでとうございます。

行政でも、企業でもできない、そんな「狭い公益」を実現している私たちが、NPOと言われるんですよ。

そんな会話をしたのがちょうど10年前。その後、NPO法制定にともなって、三重県で「NPO研究会」が設置されて、同法の実施に伴う施行条例作りに熱い議論を重ねた。その熱いエネルギーは新しい時代を迎える熱気だったように思うが、法律一つで世の中がそんなに変わる訳はないと冷静になれたのは、あまり時間はかからなかった。NPO法人三重県認証第1号の団体としての思いは深い。自分たちの活動に基軸を置き、ネットワークの一員としての役割を果たす新しい緩やかな「結び目」作りにどう関わったのか。NPO研究会で「三重県NPO支援条例」を設置提案しなかったのがどうだったのか、...

これからの10年で、本当のNPOとしての役割が見えてくるとしたら、これまでの10年には意味がある。



NPO法人市民福祉ネットワークみえ
理事長 大西良太

まずは100号発刊おめでとうございます。思い起こせば「市民福祉ネットワークみえ」はNPO室が発足した当初からのお付き合いで職員の皆様の顔が大海原のうねりのようにゆったりと脳裏をかすめます。心から今までのご苦勞を讃え重ねて改めて感謝もしたい。さて十年前、県NPO室の職員とアメリカのオレゴン州ポートランドへ草の根団体(Grass root group)の視察に行きました。現地の集会所で税、寄付、ボランティア等について双方納得するまで話し合いました。そのことについては書くスペースが無いので省きますが、そこで私が得たものは実践と言うことでした。私たちはもう十分討論した。百の話し合いより一つの活動の方が今は価値がある。戦後世代が高齢者の仲間入りをしようとし人口動態は加速度的に超高齢化に向かっている。県内における助け合い組織の整備は急務だ。NPO室の協力を切にお願いしたい。

「市民活動・ボランティアニュースに期待しています」

特定非営利活動法人三重県子どもNPOサポートセンター
理事長 田部眞樹子

100号といえば8年以上になるということ。「もうそんなに?」と一昔前に近い歳月の積み重ねに、驚きの思いをあらたにしています。

発行責任者のNPO室をはじめ一貫して構成と印刷を手掛けて下さっている萩野さん、関わり続けた大勢の方々のご努力あってのことと只々頭が下がります。

私が「がんばれネットワーク」のインタビューを受けたのは初期の頃。今回改めて当時の紙面を読み返し、自分の受け答えに8年の歳月の流れが感じ取れます。多少の成長という喜びを伴って。

これからも「市民活動・ボランティアニュース」は、新市民の旗手たらんとする市民活動に携わる多くの人たちの足許をしっかりと照らし、先達の役割を果たし続けて下さることを期待してやみません。



田部さんのインタビューは99年9月号に掲載されました。ホームページで閲覧できます。



市民にNPOを理解してもらうため、さまざまな分野のNPOが連携して実施した「NPO入門講座」の一幕
(実施主体 四日市NPOセクター会議)

力強い「第3のセクター」となるために

四日市NPOセクター会議 議長 松井真理子

「市民活動・ボランティアニュース」発刊100号おめでとうございます。充実した情報誌を毎月発刊いただいていることに、心から感謝と敬意を表します。

100号に至る年月の間に、市民活動もだんだん発展してきました。しかし「市民の時代」「第3のセクター(第1セクター=政府、第2セクター=企業)」などとちやほやされている割に、客観的に見れば、市民セクターはまだまだ社会の中で弱い存在に過ぎません。NPOやボランティアの重要性は、疑う余地もないほど明らかなのですから、もっと全体として力をつけ、名実ともに「第3のセクター」として存在感を示していく必要があります。

四日市NPOセクター会議は、このような目的で設立されたNPOの連合体です。未来に向かって力強いセクターに成長するため、NPOが連携して活動を進めていきます。

「円熟? いやいやまだまだ…」

ハローボランティア・ネットワークみえ/三重県防災ボランティアコーディネーター養成協議会議長 山本康史

100号発行、おめでとうございます。

1998年12月創刊と聞き改めて驚きました。私が今でも楽しく続けているハローボランティア・ネットワークみえの設立と同じ年月だったのです。当時NPO室長であった出丸さん、森西さん、現室長の若林さんたちに暖かく見守られながらよちよち歩きを始めた三重の市民活動も、もう小学校3年生と同じ年齢になったということですか。

自分は若手だと思ってましたが、このお話を聞いて気持ちが揺らぎました。8年以上続けている私は、もう十分中堅どころなのでしょう。いやいや、まだ私の活動歴は小学校3年生、知っていること、できることより、知らないこと、やっていないことの方が圧倒的にたくさん存在している。三重の市民活動も私もまだまだ円熟にはほど遠いけど、若いパワーに溢れている、そうでしょう?

『市民活動はデモクラシー』

特定非営利活動法人伊勢志摩NPOネットワークの会 会長 中村 元

市民活動は、日本の新しいデモクラシー運動です。お上に任せ放しにしてきた、私たちの暮らしや未来を、自分たちの知恵と努力と互いの協力によって、責任を持って創造しようとするごく自然な民意の現れなのです。

地方分権によって地域の力が試されるこの時代に、数多くの活動的で多様なNPOが存在し、さらにお互いを知るネットワークをも持つ三重県は幸いです。NPOのそれぞれは、小さくテーマの違う活動であっても、一定の数を超え社会的に結びついたとき、それは巨大な運動となり、社会の変革を担います。

伊勢志摩バリアフリーツアーセンターでは、観光業者でも行政でもない市民が、新たな観光産業を成功させ、福祉のまちづくりの中心的役割も果たしました。今私は、三重の各地で、真のデモクラシー運動が始まっていることを実感しています。



伊勢志摩バリアフリーセンターの活動が本になった! 「恋に導かれた観光再生」

夢と期待をのせて すべての市民へのよびかけを!

こもれびセンター 代表 多賀輝宏

私は42歳で失明した。

以来十数年、極度の弱視の中、妻と二人で音楽の演奏活動を続けてきた。海外旅行用トランクにキーボードや音響装置を詰め込み、白杖片手にトランクを引きずりながら各地の老人ホームや学校にでかけた。全国の障害者アーティストに登録をよびかけ、毎年「案内状」を自治体に発送、神奈川から島根、広島、愛媛まで各地でのコンサートを400回以上おこなってきた。

障害者のためではなく、市民とのかけはしになることを願ってのことである。

このニュースの姿勢は、私の活動と共通するところがある。

録音テープ版は、三重県視覚障害者情報支援センター(旧名称三重県点字図書館)で貸し出しされており、毎月数名の利用者がある。(テープ版の地域情報は貴重である)この他にも希望者へのメール配信やSPコードも印刷されている。県の印刷物の中では随一のユニバーサルデザイン化である。

しかし、まだまだ市民活動者や、県職員の中にもこのニュースの事を知らない人もおり、一般市民の関心も低い。また、障害者には加盟する団体の行事にしか参加しないという傾向が強く、行政にも介助者がいなければ参加不可という傾向も強い。

障害者が当たり前のように市民活動に参加し、市民が自然に受け入れる環境づくりの橋渡し役として、さらにパワーアップされることを希望したい。

100号記念号へのメッセージ

三重県ボランティア連絡協議会会長 泰道詞子

『市民活動・ボランティアニュース』100号記念おめでとうございます。私ども三重県ボランティア連絡協議会では、今年度より「見守り・見回り・災害支援ネットワーク」活動を実施しております。福祉を中心にした多様な県内各地域のボランティアグループのネットワークとしての特性を活かし、最近特に高まっている安全に対する懸念や、また青少年の健全育成、高齢者等への見守り活動の充実等に役立とうと思っています。従来、ともすれば自分たちの専門的な活動にかたよりがちなところを、それだけではなく、地域のさまざまな活動にも目を向け広く全体を見ながら活動を継続していこうと考えております。

この『市民活動・ボランティアニュース』の視点は、私どもと共通するものを感じます。自分たちの活動を基本に、他のさまざまな団体の活動を知り理解する。そのための貴重な情報源です。NPO団体、ボランティア団体と組織の形態はさまざまでも、志は同じです。今後も、いろいろな活動や団体をつなぐ大切な役割を果たしていただきたいと思います。

夢の架け橋

三重県教育委員長／スペシャルオリンピックス日本三重会員 山根一枝

この地で暮らす私たちが、互いに信頼し合って仲良く楽しく将来に向かって前向きに自らの意思で動こうとする時、やる気と勇気がまず必要です。しかし「建前」だらけの社会の中で、夢のような市民活動の種はなかなか発芽し開花するまでには至りません。そんな中でボランティア活動が少しずつ進展してきているのは、この「市民活動・ボランティアニュース」の役割がとても大きいと思います。

地域社会の中でまだ埋もれている市民活動の小さな種を、この紙面に拾い集めて日向に出し、助成金情報やノウハウを引き出せるように自らの育ちの環境と一緒に与えて、それによって花開いた活動や成果はすごいものです。夢の架け橋100号万歳!

「自分たちの活動への思い」

(社) 認知症の人と家族の会三重県支部 代表 泉 美幸

認知症の介護は家族だけではやっていけません。年中無休の介護の中、認知症を病む本人の思いを受け止めながら介護する家族の苦労は言葉で言い尽くせません。また「認知症」についての知識や情報が無いと、心身の負担と重圧でなす術もなく、悪戦苦闘と孤立の日々です。そういった中、同じ苦しみを共有共感できる仲間と出会うこと、経験者からのアドバイスは貴重です。仲間同士での交流は癒しであり、得られる心のケアとアドバイスは、なにものにも代えがたいものです。

孤立されご苦労されておられる方へ、私どもの存在を知らせていただくためにも、この「市民活動・ボランティアニュース」は貴重だと思っています。今後なお一層人と人の橋渡し役としての成果を期待いたしております。

100号おめでとうございます

病院ボランティア 澤 孝予

「市民活動・ボランティアニュース」100号発刊おめでとうございます。これは、実に多くの人々のご尽力によるものと思います。私のボランティアの原点は、弱っておられる方、困っておられる方に少しでも役に立つとか、手足になればとの思いにあり、小さなことでもとにかく行動することが肝心と思っています。今、私は大学病院の受付近くで案内や荷物の運搬などの手助けをしていますが、なかなか仲間が増えなくて苦慮しています。是非一度ボランティアに参加してください。

ボランティアをしてみたいという気持ちがあっても、最初は、なかなか行動に移し難いものです。そこを何とか一歩踏み込んでみてください。きっと、今までに味わったことのない幸福感やすがすがしさを感じると思います。とにかく、是非一歩踏み込んでみてください。

つながれ!.....NPO支援ネットワーク

みえ市民活動ボランティアセンター TEL059-222-5995/FAX059-222-5971

百号記念特集 100号おめでとう!次なる200号へGO!

今後の『市民活動ボランティアニュース』に期待すること

みえきた市民活動センター

理事 服部 則仁

いろんな人たちが、地域でさまざまに活動しています。いろいろな力を集めて、地域を支え、課題を解決しています。その様子を伝えること、知ってもらうこと、理解を得ること、関わってもらうこと、大切な役割ですね。

四日市市なやプラザ

海山くにご

常に新しい情報を持っていることが支援センターにとって大事なことだと感じています。毎月の発行本当にご苦労様です。いつも各地のいろいろな情報を知ることができ、勉強になり助かります。これからもいっそうわかりやすく、新鮮な情報を伝えてください。

市民ネットワーク すずかのぼどう

理事 吉島 隆子

100号発行おめでとうございます。あれも、これも、伝えたい「思い」は分かるのですが、情報の所在と質、伝えたいことを絞って、メリハリのある構成になることを期待しています。



津市市民活動センター

事務局長 川北 輝

発行100号おめでとうございます。この先、200号、300号と発行されることを期待しています。今後はアンケートなど、三重の市民活動事情がグラフや数字でわかるとおもしろいかなと思います。



松阪市市民活動センター

広報担当 澤 卓哉



祝100号。「継続は力なり」ですね。情報誌を発行する同じ立場として良い刺激になります。今後も各地域の情報を網羅した、広域の情報源であることを期待しています。「更に飛躍!(ひゃく号だけに...)」←センター長より。

めいわ市民活動サポートセンター

世古口 文子

通算100号発行おめでとうございます。毎月、市民活動やボランティアの様々な情報を楽しみにしています。さて、記事のイベント情報については、頻度を増やしてほしいです。(紙ベースで無理ならHPやメール等で...)又、字ももう少し、大きくなると読みやすいのではと期待しています。



W.T.Aまちづくりセンター

代表 中盛 汀

黄色い一枚もののニュースだ、たこが、あつかいであれ!毎月かかて発行して下さり、本当にご苦労様です。大切な情報発信のツールとして、今後とも、どうぞよろしくお願ひします。



伊賀市市民活動支援センター

担当 前川 浩也



情報を伝えること、集めることは、市民活動の第一歩です。これからも様々な情報をタイムリーに伝え、市民活動の情報共有ツールであるとともに、参加できる情報誌であってほしいと思います。

名張市市民活動支援センター

北森 洋司

イベントや助成金ニュースなど充実した内容は活動団体にとって大変参考になります。なかでも、「つながる、つなげる」や「はじめの一步」は、内容が具体的でわかりやすく、今後の活動のヒントになります。これからも、紙面を通じて人と人をつなぎ、市民活動が活発になるよう、期待しています。

いせ市民活動センター

スタッフ 酒徳 静香

団塊や若い世代の来館者が増える中、この情報誌を挨拶代わりにお渡ししています。ボランティア初心者の方やすでに活動している方に市民活動を喚起・奮起する刺激的なものであり続けてほしいです。200号達成の健闘を祈る!



東紀州コミュニティデザインセンター

事務局 端無(はなし) 徹也



手にして、「内容の充実に対して、文字が多いなあ」という感想です。必要な情報は、欲しい人で取りにいけばよいので、その導入だけあればよいです。目をひくところ、読み物としてのすみ分けに期待しております。

みえ市民活動ボランティアセンター

市民プロデューサー 安村 富子

1998年12月に初々しくデビュー。ユニークな活動や人々を紹介しながら100号という記念すべき節目を迎えました。市民活動にとって不可欠な「人モノお金」の情報をぎゅう〜と詰めて、これからも市民社会を照らす灯台のように走り続けていきたいです。



▶▶▶▶▶ がんばれネットワーク ▶▶▶▶▶

今回は市民活動・ボランティアニュース100号を記念し、「市民活動・ボランティアニュース」の企画編集を請け負っているデザインオフィス萩野の代表、萩野茂樹さんとスタッフの出口聡子さんを、NPO室の堀木がインタビューしました。
 いつもはインタビューする側である二人に逆インタビュー!デザインオフィス萩野が「市民活動・ボランティアニュース」を編集するにおいて心がけていることは…?

NPO室ができた時から…

……萩野さんが、NPO室と知り合ったきっかけは?
【萩野】97年4月にNPO室ができた時、当時の室長だった出丸さんと職員の森西さんが僕の所に挨拶に見えました。「今日、NPOというよくわからない言葉を聞いて、その仕事の担当になりました」と、出丸さんがおっしゃっていたのをよく覚えています。
 ……なぜ、萩野さんを訪れたのですか?
【萩野】津市でボランティア活動をしているということで、紹介されたそうです。ですから、デザインオフィス萩野の仕事として「市民活動・ボランティアニュース」(以下、ニュースと略)に関わる前から、NPO室のことは知っていました。
 ……ボランティア活動はいつから?
【萩野】28歳ぐらいの時に、「津市福祉マップ」という冊子を作っていたプラスワン(当時は津市福祉マップを作る会)というグループに関わったのが最初です。メンバーの中にはハンディを持っている人もたくさんいて、自分たちの手で、ハンディを持った人に必要な地図を作ろうとしていました。メンバーが印刷に出す原稿の作り方を知らなかったの、専門家に話を聞きたいということで、僕が呼ばれました。デザイナーという立場に関わったのですが、同年代の人とワイワイとプライベートなつきあいをしているうちに、いつの間にか僕もメンバーに加わりました。
 ……デザイナーとして、意見を出したことは?
【萩野】集めた情報を原稿用紙に書き直すことから、指導しました。例えば、脳性マヒのメンバーは手がふるえてしまうので、できるだけ読みやすい字の大きさとかも考えました。今で言うユニバーサルデザインですね。「津市福祉マップ」が完成した時は、メンバーがすごく喜んでくれて、それを見て、デザイナーとして、印刷物が、社会的にも役立つことに対して感動しました。
 ……スタッフの出口さんは市民活動はされていないのですか?
【出口】古い邦画や子どもを対象とした映画の上映活動をしています。

市民活動・ボランティアニュースを作る

……創刊号から、毎年行われる企画コンペで評価を得て、ニュースの企画編集を担当していますが、まず、どのような情報を掲載しようと考えましたか?
【萩野】NPO法人の設立を担当している部署だからと言って、NPO法人の情報オンリーにするのは止めようと思いました。「市民活動ニュース」というタイトルを、2003年5月号から「市民活動・ボランティアニュース」に変更したのも、その思いがあったからです。
 ……市民活動にボランティアが含まれていないのはおかしい?
【萩野】おかしいと言うより、そうあるべきだと。自治会や民生委員、消防団、そして当事者団体。僕は最初のボランティア体験で、ハンディのある人自身が積極的にボランティアをしていたのを見ていたので、ハンディがあるから、ボランティアされる側とは考えません。障害はその人が持っている属性の一つでしかないからです。でも、これらの団体には市民活動の一角を担っている意識がないことがある。僕は市民活動という言葉の意味をできるだけ広げて、情報発信することこそが、このニュースの意義だと考えています。
 ……そのことを強く感じる時は?
【萩野】特にインタビューに行った時ですね。前回登場の石崎さんも「私は落語をやっているだけです」とおっしゃってましたがお話を聞いて、「それは市民活動ですよ」と僕が言うと気づくことがある。そこがインタビューの醍醐味、張り合いでもありますね。自分は市民活動をしていないと思っている人に、「あなたの活動も別の角度から見ると市民活動だよ」と、わかってもらうことも使命だと思います。
 ……それを知らせるために工夫している点は?
【萩野】できるだけ、初心者向けに作ること。「NPOなんて、関係ない」と思う方に、噛んで含めるように伝えなくてははいけません。
 ……読者から「もっとイラストや写真を入れて欲しい」「字を大きくして欲しい」と言う要望もあるのですが?
【萩野】創刊号は今よりも情報量が少なく、その分、文字も大きかったし、余白も多かった。段々、情報が増えていくに伴って文字も小さくなって(笑)。その辺は僕たちもジレンマ。イラストや写真もふんだんに入れたいのですが、どうしても情報を優先してしまいます。
 ……情報量を左右するのは、レイアウトですね。
【出口】限られたスペース、決められた文字の大きさで、できるだけたくさんの情報を入れようと思うと、饒舌な文章を削らざるを得ません。思いがあって、長い文を書いてくださる方には申し訳ないのですが、ある程度文章量を減らさないと、他の情報が入られません。
【萩野】でも、文章を削る時でも、そのグループの思い入れは残して、無味乾燥にならないよう気をつけています。イベントなどを通じて、その団体が市民活動にかける熱意がどこかに残っていないと。
 ……締切を過ぎてから、原稿が届くこともありますよね。
【萩野】行政が発行している他の印刷物などに比べれば、かなり締切も遅めに設定してますけどね。追加原稿が来た時にまず削るのが、イラストや写真。ギリギリに来た原稿でも、それを持ってきた人の気持ちが変わるので「締切すぎます」と、機械的に切れませんね。でもやっぱり、締切は守ってくださいね!
【出口】市民活動をしているとPR方法に困るのは骨身にしみてます。自分たちの活動を掲載してもらうこともありますし(笑)。



デザインオフィス萩野に聞く
 萩野茂樹、出口聡子

……それは情報提供者の立場がわかるということでもありますね。
【萩野】だからと言って、野放図に原稿を詰め込んでいいわけでもありません。印刷に掛かる時間も、発行日も決まっていますか。
……編集には何日ぐらいかかるのですか？
【萩野】何日とは言えませんが、締切寸前は連続した作業になります。最後にNPO室で担当の堀木さんと、原稿の読み合わせ校正をしますが、終わり次第、印刷屋さんに渡すという綱渡りです。しかも、校正をしている間に、事務所では出口がまだ作業をしていたりもする。30分の差で発行日に間に合なくなるほどシビアです。
……作業性を考えると原稿はメールやデータの方がいいのですか？
【萩野】パソコンができないからといって、そのグループの内容がダメなわけじゃありません。丁寧に書いた物を送っていただくのも大事な情報発信です。逆に印刷物になってしまうと、手書きならわかる思い入れみたいなモノが伝えられなくて寂しいですね。ちょっとツライのはワープロ原稿がFAXで来た時。データ送ってって(笑)。
……寄せられる情報を見て、感じることはありませんか？
【出口】時々、問いあわせ先や重要な情報が抜けていたりすることがあります。チラシなどを作る時には、グループの活動内容を知らない第三者に見てもらおうと、必要な情報が揃っているか、確認できま

自分は市民活動をしていないと思っている人に、「あなたの活動も別の角度から見ると市民活動だよ」と、わかってもらうことも使命だと思います。

すよ。あと、文章などでも、もう少し違う表現をすれば、もっとたくさんの人に「やりたいこと」を訴えられるチラシが作れるのに…と感じることもあります。もちろん、広報が上手なグループもたくさんあります。
【萩野】思い入れのありすぎる言葉は、案外、他人には伝わらないものです。情報発信には、誰にでも伝わる言葉を使わないと。
……情報が抜けている時はどうするのですか？
【萩野】どうしても必要な情報の時はうちか、NPO室から連絡します。最終チェックの時に見つかった、その場から慌てて、携帯電話をかけることもあります。
……バリアフリーもニュースの特徴ですね。SPコード、テープ版…。
【萩野】文字だけの電子メール版もありますし、いくつかのメーリングリストにも情報を送っています。インタビューで知り合った方に紹介していただいて、視覚障害の方がたくさん参加されているメーリングリストにも情報を送っているのですが、すぐに反応がありますね。視覚障害の方に聞くと、視覚障害の人向けの三重県内のローカル情報は少ないそうです。特にインタビューのコーナーを楽しみにされているようです。
……テープ版の作成はどのように？
【萩野】視覚障害者グループの「こもれびフレンド」さんに、朗読者やテープの作成、点字図書館などへの配布を手配してもらっています。うちからは朗読者の方にメールでニュースを送っています。
……SPコードを取り入れるのも早かったですね。
【萩野】SPコードを開発した廣済堂の担当者によると、月刊紙にSPコードが入っているのは、全国でも珍しいそうですよ。
……コーナーは、どうやって決めているのですか？

【萩野】読者に求められているものを考えているうちに増えていきました。最初から絶対に掲載したかったのは助成金情報です。
……助成金の情報はどこで集めたのですか？
【出口】最初は助成財団センターが発行している冊子から探しました。当時、ニュース担当だった長嶋さんが市民活動に関係のありそうな団体をピックアップして、こちらで全てに電話をしました。
……今も一つひとつ連絡をするのですか？
【出口】団体が公募発表する時期がだいたいわかってきたので、それらをリスト化して、ニュース掲載に一番良い時期に電話をしています。お馴染みの担当者さんとは「はい、どうぞ」という感じなのですが、担当者さんが変わってしまうと、毎回ニュースの説明を一からしなくては行けないのが、ちょっと大変ですね。ただ、創刊当時はFAXか郵送でしか公募内容をいただけなかったのですが、今はたいの団体がホームページを持っているので、「そこから情報を取ってください」と言われることが増えました。
……「みえのCSR」の紹介企業はどう探すのですか？
【萩野】会議の時に隣に座った人に話すとか…。ただ、社会の流れとしてCSRが企業に認識されてきていますから、依頼すると「それはありがたい」とおっしゃってもらえます。でも、CSRという言葉が徐々に認識されているのは三重県を代表する大企業ばかりで、なかなか紹介企業を探すのは難しいです。CSRという言葉より前に、「地域企業なのだから、地域に恩返ししよう」という意識があり、全社員でボランティアをしているという企業もあると思います。「それなら、やっている」と言う企業はぜひ、ご連絡ください。
……編集していて面白いコーナーは？
【萩野】やはりインタビューです。新しい出会いが次々にありますし、その度に教えられることが多いです。お話しのなかにボランティア精神の原点のようなものを感じます。NPO室職員の方もそうだと思いますが、僕も会議専門のボランティアになりがち。やはり現場で、人のふれあいの中で活動していくことが原点だなあと感じます。
……話を聞く秘訣などありますか？
【萩野】事前に準備もしますが、話していて「面白そう」と感じた所を突っ込んで聞きます。遠慮がちな方は「私の活動は大したことない」とおっしゃりますが、突っ込んで聞いていくと、実は「大したこと」ある。会話することで、自分の活動に対して自信を持たれる方もいます。あと、写真の撮り方もちょっと工夫しています。よそいきではない普段の姿を撮りたいので、だいたいインタビューの最後に、話ながら撮影をしています。話がノッてくると、いい顔をされますね。
……ニュースを作っていて、嬉しかったことは？
【萩野】最近では、2007年1月号のインタビューに登場した澤さんが大変喜ばれて、50部ほどお友だちに配られたそうです。それを聞いて「僕らが作っている物は、そんなに値打ちのある物なのか」と再認識しました。印刷物に掲載されるのが、ご本人にとってどんなに素晴らしい事なのか。その気持ちを大切にしないといけませんね。
……最後に今後の展開を聞かせてください。
【萩野】ユニバーサルデザインの面から言えば、確かにもう少し紙面に余裕が欲しいですね。情報量は減らせませんから、ページを増やしてもらえないかな(笑)。あとはこのニュースの存在、利用法をもっと広めたいですね。行政でも部署にこだわるのではなく、市民活動に関係する情報を横断的に掲載したいですし、市や町の持っている情報をもっと出てくるといいですね。利用する市民の側から見れば、ニュースが県から出ていても、市から出ていても関係はない。そういう境界線を無くしたいです。

お
ね
が
い

市民活動・ボランティアにニュースに情報を提供される際、以下のことにご注意ください。

- (1) 原稿はにニュースにそのまま掲載できる状態にして、毎月10日までに送ってください。
- (2) 送付はE-mailもしくはFaxで。その際、「市民活動・ボランティアにニュースへの掲載のお願い」と件名を明記してください。Fax.059-222-5971 E-mail seiknpo@pref.mie.jp 転載を希望される場合は必ずNPO室に連絡してください。

古紙100%、白色度83.5%の紙と環境にやさしい植物性大豆インキを使用しています。